

体験談レポート

ユーザー: H.S(50 代・男性) 埼玉県

商品名: ニュウモラップジャケット

～いまやもう手放すことのできない必須アイテム～

厳冬期の BC スキーにニュウモラップをハイクアップ時のアウターとして、休憩時や滑走時にはミッドレイヤーとして 18 日間使用しました。今やもう手放すことができない必須アイテムです。

- ① 防風性と透湿性が高いレベルで両立しており、BC スキーのハイクアップのアウターとして最適である。特に、風がない山腹から強風が吹く稜線に出るような状況でもいちいちアウターを着たり脱いだりする必要がなく、大変重宝した。ハイクアップ時は運動量が大きいのでピットジップを常時全開で使っているが、それでも風による冷えを感じることはなかった。
- ② 生地が薄いので気がかりだった保温性は予想外に高く、マイナス 20℃近くまで冷え込んだニセコのハイクアップでも全く問題なかった。逆にそれまで使っていた冬用の長そで T シャツを 1 ランク薄いものに替えることができた。
- ③ 軽量かつ生地がしなやかなため体の動きを妨げず、非常に軽快に行動できる。
- ④ 非常にコンパクトであるためザックに収納する場合も邪魔にならないのありがたい。

厳冬期 BC の代表例としてマイナス 20℃まで下がったニセコでの山スキーについて報告します。

テスト日時: 2010 年 2 月 10-14 日

アクティビティ: 五色温泉泊 BC スキー

場所: 北海道 ニセコ周辺

当日のレイヤリング:

- (トップス): ニュウモラップ JKT、フラッドラッシュスキムメッシュ T、冬山用 Long T(化繊)、BC 用長袖ジップネック(化繊)、BC 用アウター
(ボトムス): フラッドラッシュスキムメッシュボクサーショーツ、ボクサーショーツ(化繊)
夏用サポートタイツ、タイツ(化繊)、BC 用オーバーパンツ、スパイフィルソックス



2 月 11 日 高曇り時々ガス

アンヌプリスキー場のゲレンデトップにある管理外エリアへの出口ゲートが 10 時に開くの待ってアンヌプリ山頂を目指してハイクアップを開始。アウターを脱ぐ間もないほんの 30 分ほどのシール登行で大勢のゲレンデスキーヤーやボーダーで賑わう山頂にあっけなく到着した。多くの人はゲレンデに続く南斜面を滑るようであるが、我々は狙いの「北壁(きたかべ)」にドロップイン。本州ではお目にかかったことがないサラサラなパウダーはターンをしなくても盛大なスプレーとなって巻き上がり全員頭まで雪まみれ。笑い歓声が止められないままに標高差 500m をあっという間に滑り降り、冬季閉鎖中の車道に滑り込んだ。今まで味わったことのないパウダーの興奮が冷めやらぬまま、次は正面に聳える急峻なイワオヌプリの山頂を目指してハイクアップ。いつものようにアウターを脱いで身軽なニュウモラップで急斜面のラッセルをこなして雪が舞うピークへ着くとそこは風の通り道。

こんなシチュエーションが適用条件範囲の広いニュウモラップの真骨頂。風による急な汗冷えを感じることもなくゆっくりと滑走の準備を整え、南西面の沢にドロップイン。再びフワフワパウダーを蹴散らして宿泊先の五色温泉旅館前に滑り込んだ。しかしツアーはこれで終了ではなく、アンヌプリスキー場の駐車場に停めた車を回収するために更にハイクを続け、アンヌプリとモイワ山のコルから派生する尾根(見返り坂)をツリーラン。これがまた素晴らしいパウダーで 1 日の最後を止められない笑みと共に締めくくった。

2 月 13 日 快晴

昨日とは打って変わって快晴の朝を迎えたニセコスキーツアー 3 日目の今日はチセヌプリスキー場のゲレンデトップから真っ白な斜面がとても魅力的なシャクナゲ岳を目指す。放射冷却によって冷え込んだため、朝 8 時の気温は標高 244m 地点での観測値がマイナス 15.5℃。標高 800m のゲレンデトップの気温はマイナス 20℃近くになっていたものと思われる。気温は低いが風が全くないため初めからアウターを脱いでニュウモラップでハイクアップを開始。キラキラとダイヤモンドダスト舞う素晴らしいツアー日和である。日照でサラサラパウダーは多少重くなってしまうかもしれないが、こんな快晴の下で全くトレースのない雪原を行くスノーハイキングは最高の気分だ。

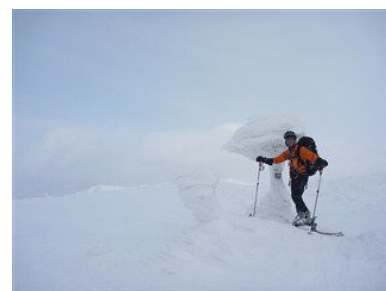
少しクラストした山頂直下を慎重にシールで登りシャクナゲ岳に到着。山頂では少し風があったので仲間たちはすぐにアウターを着込んでいたが、ニュウモラップの防風性のおかげで寒さを感じなかった。



シャクナゲ岳山頂にて

山頂から見渡す周囲は山スキー天国。楽しそうな斜面があちこちに見える。特にシャクナゲ沼をはさんだ北側の無名峰は人気の山らしく何組ものスキーヤー・ボーダーが登っているのが見えた。シャクナゲ岳のノートレースの斜面の滑りを楽しみ、チセヌプリとのコルまで下りると先ほどの無名峰がとても魅力的な東斜面を見せていた。これを見ては行くしかないと思定を変更して先行者のトレースを使って無名峰へ登った。もうズタズタにされていると覚悟していた東斜面は意外にもトレースが少なく、標高差 250m の極上パウダーを一気に蹴散らして長沼へ滑り込んで大満足。素晴らしい 1 本になった。そして次は最終目標のチセヌプリへのハイクアップ。今日はもう 3,40 人が登っているはずであるが、南面にはハイクアップのトレースがなく山頂直下まで膝ラッセルが続いた。

山頂に到着すると間もなくガスが出てしまい先ほど滑ったシャクナゲ岳や無名峰を眺めて満足感に浸ることができなかったのは残念だったが、厳冬期のニセコで快晴の 3 座登頂は出来すぎだろう。ガスが薄くなった頃合いを見計らって南斜面の滑走を楽しみゲレンデに戻って 1 日を終えた。



チセヌプリ山頂にて